

# 教育新聞

発行所 教育新聞社  
 〒110-0005  
 東京都台東区上野3-17-7  
 代表 電話 03 (3832) 3571  
 FAX 03 (3832) 3570  
 URL <http://www.kyobun.co.jp>  
 E-mail [kyoiku@kyobun.co.jp](mailto:kyoiku@kyobun.co.jp)  
 購読料 2625円(月額、税込)  
 振替口座 00170-6-4369  
 ©教育新聞社 2010  
 週2回 月・木発行

## 分野を超えて 社会科 授業を 創る

新学習指導要領で  
 求められるもの

玉川学園マルチメディア  
 リソースセンター研究員

多賀 譲治

川崎市には二ヶ領と名の付く用水がある。稲毛領と川崎領を流れるためにこの名が付けられた。近代堤防によって流れは固定化されたが、江戸時代までの多摩川は何度かその流れを大きく変えたため、川沿いの平地は砂礫層が地盤となっている。そのため家康60個村の村々を潤し、200

### 教師の力というところ、自主教材の意義

完成当初、農民の暮らしは楽ではなかったが、現金収入が増えたため江戸中期には豊かな農村へと変貌を遂げていった。「溝口騒動」など早稲米を産する水田を潤し、梨や大豆や野菜の畑に給水された。それに伴い、酒や醤油の醸造が盛んとなり、江戸市民の台所に供給された。また、唐紙や精糖、素麺などの手工業も徐々に発達した。農民は商品や作物を売ったお金で肥料を買い、いよいよ田畑からの収入は上がった。このことから分かることは、江戸時代の農民が唯々諸々と武士のために働く存在ではなかったということである。長い間には補修を要する大工事もあったが、農民はただ命令に従っていたわけではなかった。農

工事が自らの生活向上につながっていることを理解し、役人と手を組んで資金や労力を提供してきたのだ。教科書に見られる「米に縛られた農民」の姿はそこにはない。生産が上がったため江戸中期における同地域の実質的な年貢率は三六七民であったという。時代劇に見られる米を食えなかった農民はどこへ行ったのか。そうした小作人や水呑み百姓は確かにいた。しかし、江戸時代の農民すべてが極貧であったような事実はないのである。川崎市内の学校では、必ずといってよいほど「二ヶ領用水」のことを取りあげる。しかし、ただ郷土の歴史として学ぶのではなく、地域の特徴から普遍的なことを読み取ることも大切なことである。農

業用水としての役割を終えた二ヶ領用水は、その後の工業化と市街化にも大きく関係しており、公的な切り口からも教材を作ることができる。一つの出来事を多面的にとらえ、それらを立体的に組み立てていけばいくつもの題材が生まれる。ただでさえ忙しい教師にとって、自主教材を作るといふのは並大抵のことではない。しかし、教材研究なしに良い授業はできない。教材解釈の力がなければ授業目標の到達点を高めることはできない。

「進みつつある教師のみ、人を教える権利あり」とはドイツの教育家ティスデルウエットの言葉である。教科書と指導書だけに頼っていてはだめなのである。

7町歩を開いた。多摩川から取水された用水は木樋を使って既存河川と立体交差し、分水し、堰を使って水位を上げながら良質な稲毛米を産する水田を潤し、梨や大豆や野菜の畑に給水された。それに伴い、酒や醤油の醸造が盛んとなり、江戸市民の

### 研究なしに良い授業はできない

民300年の悲願ともいえるよう。このことから分かることは、江戸時代の農民が唯々諸々と武士のために働く存在ではなかったということである。長い間には補修を要する大工事もあったが、農民はただ命令に従っていたわけではなかった。農

工事が自らの生活向上につながっていることを理解し、役人と手を組んで資金や労力を提供してきたのだ。教科書に見られる「米に縛られた農民」の姿はそこにはない。生産が上がったため江戸中期における同地域の実質的な年貢率は三六七民であったという。時代劇に見られる米を食えなかった農民はどこへ行ったのか。そうした小作人や水呑み百姓は確かにいた。しかし、江戸時代の農民すべてが極貧であったような事実はないのである。川崎市内の学校では、必ずといってよいほど「二ヶ領用水」のことを取りあげる。しかし、ただ郷土の歴史として学ぶのではなく、地域の特徴から普遍的なことを読み取ることも大切なことである。農

業用水としての役割を終えた二ヶ領用水は、その後の工業化と市街化にも大きく関係しており、公的な切り口からも教材を作ることができる。一つの出来事を多面的にとらえ、それらを立体的に組み立てていけばいくつもの題材が生まれる。ただでさえ忙しい教師にとって、自主教材を作るといふのは並大抵のことではない。しかし、教材研究なしに良い授業はできない。教材解釈の力がなければ授業目標の到達点を高めることはできない。

「進みつつある教師のみ、人を教える権利あり」とはドイツの教育家ティスデルウエットの言葉である。教科書と指導書だけに頼っていてはだめなのである。